

# 説明的文章の読み方

## 説明的文章を読むポイント

1. 話題（何について書いてあるのか）を捉える

2. 指示語（こそあど言葉）や  
接続表現（接続語など）を捉える

3. 段落構成（段落相互の関係やつながり）を捉える。事実と意見を読み取る。

4. 要旨（筆者が読み手に伝えたいこと）を捉える

# 説明的文章の読み方

## 説明的文章を読むポイント2

2. 指示語（こそあど言葉）や  
接続表現（接続語など）を捉える

指示語（この・そこ・あれ・どれ など）の指し示している内容を捉える。

接続表現（接続語など）に着目し、段落相互の関係や文と文、語と語のつながりの関係を捉える。

## 説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

指示語（こそあど言葉：この・そこ・あれ・どれなど）の指し示している内容を捉える。

指示語について（一部だが一覧を挙げておく）

【こ】	これ	ここ	こちら	この	こんな
【そ】	それ	そこ	そちら	その	そんな
【あ】	あれ	あそこ	あちら	あの	あんな
【ど】	どれ	どこ	どちら	どの	どんな

## 説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

接続表現（接続語など）に着目し、段落相互の関係や文と文、語と語のつながりの関係を捉える。

接続表現には接続語やいくつかの語がまとまって前後をつなぐ役割を持った表現がある。

- ・ 接続語（一部）

だから      それで      しかし      でも      そして

- ・ その他の接続表現

そうはいつでも      このようにして      など

## 説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

**接続語**は前後の接続の仕方でも6つに分類される。  
これを理解しておくると便利ですヨ。

### 例1 「**順接**」の場合

昨夜は一生懸命勉強した。**だから**、今日のテストは100点だった。

(前の部分が原因となって後の部分に順当な結果としてつながっている)

## 説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

**接続語**は前後の接続の仕方でも6つに分類される。  
これを理解しておくると便利ですヨ。

## 例2 「**逆接**」の場合

昨夜は一生懸命勉強した。**しかし**、今日のテストは100点だった。

(前の部分が原因となって後の部分に順当ではない逆の結果としてつながっている)

## 説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

**接続語**は前後の接続の仕方でも6つに分類される。  
これを理解しておくると便利ですよ。

### 例1 「順接」 例2 「逆接」のほかに

「並立・累加」	また	そして	しかも	など
「対比・選択」	または	あるいは		など
「説明・補足」	ただし	なぜなら		など
「転換」	さて	ところで	では	など

**がある。**

説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

それでは 問題です。

**Q1**

説明的文章を読む際に〇〇の指し示す内容を捉える。〇〇に入る言葉は？

**Q2**

説明的文章を読む際に〇〇に着目する。〇〇に入る言葉は？



説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

**Q 1**

説明的文章を読む際に〇〇の指し示す内容を捉える。〇〇に入る言葉は？

**答え**

指示語  
(こそあど言葉)

## 説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

**Q 1** 説明的文章を読む際に〇〇の指し示す内容を捉える。  
〇〇に入る言葉は？

答え

指示語（こそあど言葉）

指示語は説明的な文章では頻繁に出てくることが多いので、指示語の指し示す内容を捉えることが大切です。

スズメは本当に減っているのでしょうか。あまりに身近な鳥なので、大人たちが、郷愁から、「昔はスズメもあんなにいたのに……。」と思い込んでしまっているだけかもしれませんが。また、「減っている」と言われるから、つい、**そう**なのかもと誤ってしまっている可能性もあります。

「**そう**」が「減っている」を指していることを捉えるのがポイント

説明的文章の読み方

## 説明的文章を読むポイント2

**Q2**

説明的文章を読む際に〇〇に着目する。  
〇〇に入る言葉は？

**答え**

接続表現  
(接続語など)

## 説明的文章の読み方

# 説明的文章を読むポイント2

**Q2** 説明的文章を読む際に〇〇に着目する。  
〇〇に入る言葉は？

答え

接続表現（接続語など）

接続表現を捉えることで、段落相互や文と文、語と語のつながりの関係を読み取る手がかりになります。

「赤ずきん」に出てくるオオカミは、赤ずきんのおばあさんに成り済まして赤ずきんを待ち伏せし、訪ねてきた赤ずきんを食べてしまいます。このような童話の影響を受けて、オオカミはずる賢くて悪い動物だと感じる人もいるかもしれません。

これらは昔のヨーロッパの童話です。そして、実際、昔のヨーロッパでは、オオカミは悪を象徴する生き物とされ、憎まれていました。

「そして」以前の内容に、以後の内容を付け加えているのがポイント